

体験生かし初の自社製品

大成樹脂工業（羽生市）

デザイン／機能を両立させ 要介護者が食事を楽しめる自立支援食器の開発

発端は、ある社員が耳にした老いた親のつぶやき。「食事が楽しくない」。器に盛った料理を箸で挟み、スプーンですくって口に運ぶ。健康であれば何でもない作業が、手先の不自由な身には苦痛になる。そんなお年寄りでも使いやすく、見た目も楽しめるような食器ができないか。2012年春、プロジェクチームが開発に乗り出した。

何よりもまず求められるのは機能性。最後の一口まですくいやすいように器の底に付けた円周状の窪みは、スプーンの先の部分の丸みに合わせてある。合成樹脂製で割れにくい上、低重心で安定性に優れ、トレイの表面

にも滑りにくい加工を施した。全ては片手でも楽に食事ができるように、という



機能性とデザイン性を兼ね備えた自立支援食器「IROHA」

工夫だ。

一般的に介護用食器というと、転倒防止のクッションや大ぶりの取っ手が付いているたりと「いかにも」なデザインが目につく。しかし、新商品の開発に携わった宮崎仁芳開発部次長は「デザイン面も切実協はしなかった」ときっぱり。「介護用食器に見えないデザイン性」を追求し、試行錯誤を重ねた末にたどり着いた会津塗りの

椀と器はしっとりとした高級感が漂う。

「IROHA（いろは）」と銘打った自立支援食器は大成樹脂工業初の自社製品となった。プラスチック製品のメーカーとして金型製造、量産射出成形などサービスは幅広いが、今までは全て下請けの受注生産だった。宮崎次長は「（自社製品は）下請けの仕事にない夢もあります」と話す。

【大成樹脂工業株式会社】

本社は東京都文京区千石4の21の1、埼玉工場は羽生市大沼2の18。ほかに群馬工場も。松岡良彦代表取締役。1963年に創立。プラスチック射出成形品の製造や金型製作。2012年に立ち上げた自社ブランド「リールユー」の第1弾となる自立支援食器「IROHA」は15年のグッドデザイン賞を受賞した。